

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	露語第二(再履)		
英文授業科目名	Elementary Russian II		
開講年度	2004年度	開講年次	再履2年次
開講学期	4学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	熊野谷 葉子(学内連絡教官)		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
nakagawa-kumanoya@cnc.jp	

【主題および達成目標】
ロシア語の文字と発音から始め、基本的な文法事項をひとつお習得する。具体的な達成目標は、ロシア語で書かれた文章を声に出して読むことができ、辞書を引けば平易な文章が理解できること。また、挨拶や自己紹介、買い物や道を聞くといった程度の簡単な会話が参考書なしでもできるようになることを目指す。

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
教科書：桑野 隆 『はじめてのロシア語』第二版 白水社 辞書：特に指定しないが露和辞典を一冊授業に携帯すること。初級者には 『パスポート 初級露和辞典』(白水社)か『博友社 ロシア語辞典』が使いやすいだろう。

【授業内容とその進め方】

基本的に教科書の章立てに沿って授業を進める。

4月いっぱいにはロシア語の文字と発音に慣れることに重点を置き、5月以降本格的な文法学習に入る。文法解説の順序はおおむね以下のとおり。

- ・名詞の格変化
- ・動詞の現在人称変化
- ・過去時制
- ・動詞の体
- ・未来時制
- ・名詞、形容詞の格変化
- ・命令法
- ・数詞とその用法
- ・比較級・最上級
- ・形動詞、副動詞

毎回授業の最後に、出席の確認を兼ねて10分程度の小テストを行う。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

<出席評価方法>

・出席が全授業回数の半分に満たない者は、いかなる理由であれ単位取得を認めない。

・毎回授業の最後に行う小テストを50%、学期末最後の授業時間に行う期末テストを50%とする。

<評価基準>

最終的に単位を取得するには、最低以下のことが理解できていることが必要である。

- ・ロシア語の基本的特徴について、他の言語と比較して述べることができる。
- ・ロシア語のアルファベットの読み方と順序を正確に言うことができる。
- ・辞書をひいて簡単な文章を理解することができる。
- ・簡単なロシア語会話の聞き取りができる。
- ・簡単なロシア語の文章を作り、話すことができる。

【オフィスアワー：授業相談】

授業に関する質問は授業内に答える。その他の相談については授業後の休憩時間、Eメールで受け付ける。

電気通信大学 平成16年度シラバス

【学生へのメッセージ】

ロシア語は、社会へ出てしまうとなかなか勉強する場がありません。このチャンスを生かしてぜひ基礎を学んでみてください。基本的には語学の授業ですが、教科書以外の映像資料や音声資料も用いて、ダイナミックに変動し続けるロシアの社会と多様な文化に触れていきたいと思えます。積極的な参加を待っています。

【その他】